

参 考 资 料

参考資料1 協議会議事要旨

1. 第1回検討委員会協議要旨

日時：平成20年12月11日 10:00～12:00

八仙閣 4階 雅の間

<出席委員>

小川委員長、北園委員、吉武委員、山田委員、森北委員

- ◆ 規約(案): 了承された。
- ◆ 調査の実施方針: 了承された。
- ◆ 調査内容:

(1) アンケート調査・先進事例調査

- ・ 矢田アドバイザーより「高齢化集落の対策には、地縁、血縁、支援の3エンのコミュニティが必要であり、今回の調査でその実態や関係性などについて調査していただきたい。」と意見をいただいている。(小川委員長)
- ・ 数量的なデータを集める調査としてアンケート調査を考えている。それと同時に、質的な調査として、集落のワークショップと取り組み事例をできるだけ集めようと考えている。(小川委員長)
- ・ 今回のアンケート調査では、集落の傾向を網羅的に捉える必要があるため、対象集落の抽出範囲の下限を設けず、分析過程で世帯数による傾向などについて見ていく方針。(小川委員長)
- ・ 医療施設等についても設問では、集落の中に施設があるかではなく、通えるところにあるかを聞くべき。(吉武委員・小川委員長)
- ・ 集落アンケートの設問の支援者の選択肢では、団体のイメージが強い。
様々な応援団が個人的な集団の形態で活動しており、団体の形は取っていない場合がある。
それぞれの個人的なボランティア活動や機関等の動きも把握する必要がある(吉武委員・小川委員長)
- ・ 公共サービスの充実だけではなく、住民の身近な活動や、それを支える民間の活動の中から元気を出していくストーリーを考えることも大事である。(小川委員長、山田委員)
- ・ 元気を出していくためには、集落の外との接触、交流に着目する必要がある。その際、日帰り型の交流、滞在型の交流に分けて検討すべき。(小川委員長、山田委員)
- ・ 地域に観光スポットがあれば、資源利用を考慮してアンケートの設問に加える。(北園委員)
- ・ 山間では、災害に対する不安があるので、安心・安全の面も設問に加える。(北園委員)

(2) ワークショップ

- ・ 対象地域が一ヶ所では、今後考えられるアイディア集や事例集のバリエーションが弱くなり、またワークショップの回数が1回のみでは計画立てられない。
ワークショップで計画まで出来ても、実施されなければ、逆に地元の人を元気を削ぐ結果になりかねないので注意が必要。(吉武委員)
- ・ 外部との接触で、日帰り型(九州本土側)・滞在型(離島側)を検討することが必要。今年のワークショップの対象地はどちらか一つでも良いが、次回のためにもう片方の準備も進めるべき。(山田委員)
- ・ ケーススタディの面では、限られた事例を利用し、インデックスをつけて類型・分類する。こうしたインデックスに基づいて比較対象となるような類型のケースを増やす方法も考えられる。
- ・ 住民との面識も出来ているので、昨年度調査を実施した地域の中から、市町村等の協力状況を考慮して上で選定した方がよい。(北園委員、小川委員長)

(3) 今後のスケジュール

第2回委員会は、1月26日を予定。

2. 第2回検討委員会の協議要旨

日時：平成21年1月26日 16:00～18:00

第三博多偕成ビル 4階 大会議室

<出席委員>

小川委員長、矢田アドバイザー、北園委員、吉武委員、森北委員
丸山委員(代理：後沢氏)

委員就任について

今回の調査検討委員会からの宮崎県県民政策部長の委員就任について了承された。

議事

(1) 第1回調査検討委員会での意見と対応

了承された。

(2) アンケート調査結果について(中間とりまとめ)

- ・ 効果的な、外部との交流・連携施策を検討するため、集落のどのような要因が積極性や消極性に影響しているかの分析を深める必要がある。(小川委員長・吉武委員)
- ・ 50世帯以上の集落は「既に取り組みを実施している」を含めると、集落元気づくりの取り組み意欲があるという結果になり、20世帯未満の小規模集落が一番取り組み意欲は厳しいことになるため、アンケート分析の文章表現はおかしいので、正しく表現すること。(森北委員)
- ・ 取り組み意欲の有無を、世帯規模や高齢化率以外の要因との関係もクロス集計し、取り組み意欲に関連する要因を調べる必要がある。(例；生活中心都市との距離、資産管理への不安、鳥獣被害など)(小川委員長)
- ・ 中山間地域の首長意見では、鳥獣被害と医療への関心が高く、特に野生鳥獣による収穫直前の被害は甚大で、耕作意欲を減退させている。中山間地域の活性化に向けた大きな課題である。(森北委員)
- ・ 鳥獣被害対策の現場では、自然保護との折り合いの問題、鳥獣被害の対応技術の問題、対策費用の問題などが発生している。また、道路整備により鳥獣被害が甚大になった事例もあることから、今後は鳥獣被害防止の技術的な検討も必要になってくることが考えられる。(小川委員長)
- ・ 医療問題については、搬送システムだけでの対応は難しい。諸外国の例では、看護師の権限を初期医療まで拡大し、過疎地域に配置する取り組みがある。九州で実験的に取り組む方向性があっても良い。(小川委員長、矢田アドバイザー)

(3) ワークショップ対象地選定について

ワークショップ対象地は、宮崎県西米良村八重集落に決定。

- ・ 通信コミュニケーションは大きな課題であるため、ワークショップの中で、集落住民が考えておられる問題・課題やニーズを把握する必要がある。(小川委員長)
- ・ 林業などの入植により新たに出来た集落では、居住者と土地の所有者が異なり、定住するという意欲が起きにくいという場合がある。集落の成り立ち等の歴史についても調べておく必要がある。(小川委員長・吉武委員)
- ・ 以前の災害時に集落の一部が浸水し、その後は集落外に避難しているとのことだが、集落外とはどちらに避難しているのか。(北園委員)
- ・ このような山間集落では、集中豪雨や豪雪などを契機として過疎化が一気に進行するといった事例が見られるため、災害への懸念や災害による離村の可能性などについて集落住民から話を聞く必要がある。(小川委員長)

(4) ワークショップの進め方について

- ・ 子供も楽しく参加できるよう、スタッフ側に学生など若い人や女性の方を配置した方が良い。

また、誘導にならないよう配慮した上で、先行事例集のような資料提供やパソコン検索の実践など、集落住民の方が元気づくりを考える際のヒントになるものを勉強する時間を2、3回目のワークショップで設けることも必要。(小川委員長・吉武委員)

- ・ 子供の意見を聞きだす際、絵を描いてもらい、その絵に込められた想いを上手に引き出す方法もある。参加するスタッフは、宮崎大学の学生や中山間地域の災害などに興味を持つ熊本大学の学生なども検討する必要がある。(小川委員長)
- ・ 集落住民が主役の集落づくりということは認識しているが、行政としてやらなければならないことも出てくる。その取り組みについて集落住民と行政との役割分担まで整理するのか。ワークショップで企画・計画ができた後、実施に向けた仕組みや方法など、フォローアップも必要。(丸山委員代理：後沢氏)
- ・ ワークショップでは集落住民の意向を知ることが大事。(小川委員長)
- ・ フォローについては、既存制度とのマッチングという対応と、既存にない新しいものについては政策提言という対応が考えられる。また、全てが行政対応ではなく、民間対応の方がより効果的に事業化できる場合もある。

今後の展開は住民意向に沿った形で進めることが必要。(小川委員長)

- ・ 総務省の取り組みで、集落支援員の配置など、集落支援への補助もあるのでその活用を検討する必要がある。(小川委員長)
- ・ インターネットの利用で交流が広がる。例えば、集落に居ながら、情報でものを売ることができるし、また、他出者等、外部の人たちと交流することで、精神的な孤立感が少なくなる。(矢田アドバイザー)

- ・ ワークショップの中で、地元の人たちのニーズを把握した上で、山村の活性化への情報通信の活用方法について検討する必要がある。(小川委員長)

(5) 先行事例調査について

- ・ 外部との関与に積極的でない集落もあるため、集落が独自に取り組んでいる先行事例も調査する必要がある。(小川委員長)
- ・ 集落と都市との距離が八重集落と同程度の集落の先行事例も必要ではないか。(矢田アドバイザー)
- ・ アンケート調査で不安視された鳥獣被害や医療問題に取り組んでいる先行事例の調査も必要。(小川委員長)

(6) 今後のスケジュール

第3回委員会は、3月23日(月)13:30~を予定。

3. 第3回検討委員会の協議要旨

日時：平成21年3月23日 13:30～15:30

八仙閣 4階 雅の間

<出席委員>

小川委員長、矢田アドバイザー、山田委員、
北園委員、吉武委員、森北委員

議事

(1) 第2回調査検討委員会での意見と対応

了承された。

(2) 先行事例調査の取りまとめについて

- ・ 集落の抱えている課題は多様であるため、知恵袋集の取りまとめには複数の目標に対応させたり、組み合わせを行うことが大事である。また、それを発想した人は誰かということと、そこまで漕ぎつけたリーダーは誰か、その人はどういう役割を担っているのか、あるいは、誰が応援してくれたのかということと、集落の条件が合わせて見えるようにする。(吉武委員)
- ・ リーダーの人が何を目的に取り組んだのか、その気にさせるためにはどういう工夫をしたのか、何かに取り組んだとしても、なぜそれに取り組むのかというバックグラウンドにあたるものについても記載する。(小川委員長)
- ・ 知恵袋集というのは発想としては面白いが、活字にしてしまうと面白くないため、ビデオにしてイメージがわくようにしてはどうか(矢田アドバイザー)
- ・ 今回のワークショップのビデオも編集して動画配信が出来るようなことをやるとインパクトを与えられるかもしれない(小川委員長)

(3) 集落元気づくりワークショップ開催報告

- ・ 八重集落の人口・世帯動向についての情報提供(国勢調査等)をお願いしたい。(矢田アドバイザー)
- ・ 一度離村した人の把握についてはお寺の檀家を調べると良い(小川委員長)
- ・ 活性化のエネルギー源として、Iターン者や集落住民の出身地、地域外部との交流の有無について把握することも検討する。(山田委員、小川委員長)

(4) 集落元気づくりへの支援策の提案について

- ・ 大学と集落活性化を、各大学が得意なところでやっていくと違ってくるのではないかと(矢

田アドバイザー)

- ・ それぞれの大学の体験型学習に任せればなしにするのか、それとも誰かが交通整理を試みながら取り組むのか、という問題は大きな問題(山田委員)
- ・ 中間組織の話も大学を含めて出たが、各大学で地域に対する取り組みをどういう形でやっているかということを先ずまとめてほしい(北園委員)
- ・ 中国地方の中山間地域研究センターを徹底的に分析すると、次のステップに進む手がかりにはなるのではないかと(山田委員)
- ・ 中国地方でやっているようなことを知事会に提案すればがんばれるのではないかと思う。大学も協働したらお金がとれるときだけ協働するのではなく、自主的に横の繋がるような連携をしなくてはならない(矢田アドバイザー)
- ・ 集会所もなく、集落元気づくりへの取組意欲も低い小規模集落の人たちが何を考えておられるのか、それに対してどのような行政としての関わり方があるのかということについて調査をしなければならない。(小川委員長)
- ・ 5つの提案を、それぞれすぐにできることと、これから関係各方面と色々な方面で接触しなければできないようなことに分ける。(小川委員長)

(5) その他

来年度も予算を確保しながら、この委員会、調査検討を続けていく(森北委員)

参考資料2 集落元気づくり新聞

1. 西米良村八重集落 集落元気づくり新聞 第1号

西米良村八重集落 集落元気づくり新聞

平成21年2月18日
第1号

発行: 国土交通省九州地方整備局

集落元気づくりワークショップ開催される！

平成21年2月10日(火)に八重活性化センターで、
第1回集落元気づくりワークショップを開催しました。

国土交通省九州地方整備局では、「自立した元気な九州圏土づくり」を目指し、小規模・高齢化集落の活力維持・向上に向けた取り組みと支援策の調査・検討を行っています。

「集落元気づくりワークショップ」では、集落の人々の暮らし・生活をいかに維持していくかに焦点を当てながら、元気を呼び戻すために、集落の人たちの力で、一緒に考え、話し合いながら「集落元気づくりの取り組み」を見いだしていくことを目的とします。

第1回のワークショップでは、世代別に4班に分かれ、集落人口ピラミッドや集落現況マップを作成しながら、集落の現状について話し合いました。

真剣な議論の中にも、笑いが包む和気あいあいとした雰囲気、熱気にあふれたワークショップとなりました。

今後、集落の10年後、未来を考え、元気を出していく取り組みについて話し合っていきます。



宮崎県西米良村八重集落の現状



西米良村

集落の位置：宮崎県児湯郡西米良村の西部、熊本県境に位置する集落

集落の特徴：平成元年に有志一同による物販所を開設し、ファミリーフィッシング等のイベントをやっていたが、平成16年の災害以降行われていない。当時のメンバーは現在70歳代。50歳代～60歳代が少なく、新たに集落づくりを行う次世代への引き継ぎが課題。若手としては消防団員を構成する8名である。集落内にある村営の定住促進住宅にはターン者を含む2世帯が居住。



集落中心部にある集会所。平成16年の台風時に水に浸かる。以来住民は大雨が来ると自主的に集落外へ避難する人が多い。



集落中心部より上流にある「吐合地区」では、近年、高齢単独世帯が増えている。

八重地区の人口構成

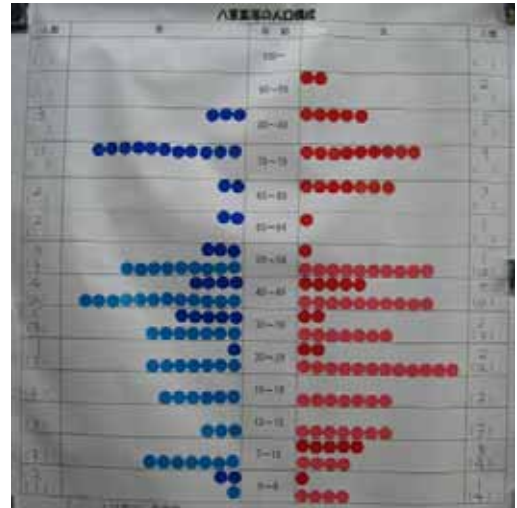
～後継者世代が他出、70代居住者が最も多い～

集落の人口構成、集落外に住まわれている集落縁者

(他出者)の状況を把握するために、人口ピラミッドをワークショップ参加者の皆さんで作成し、その結果判明した内容を下に整理しました。

人口ピラミッドからみた八重集落の人口構成

- ・ 八重集落人口は73名ですが、他出者を含めると186名になります。
- ・ 現在八重集落の高齢化率(集落全体に占める65歳以上の割合)は53%ですが、他出者を含めると21%になります。
- ・ 60歳代は居住者と他出者共に少ないが、70歳代は多く居住しています。
- ・ 40歳代～50歳代の居住者が、昔、進学や就職で他出し、その結果、その子世代にあたる10歳代から20歳代が集落には少ない状況



八重集落の人口構成(上段:居住者、下段:他出者)

	男性	女性	合計	構成比率(%)
65歳以上	16 (0)	23 (0)	39 《39》	53 《21》
15～64歳	15 (41)	11 (46)	26 《113》	36 《61》
15歳未満	2 (11)	6 (15)	8 《34》	11 《18》
計	33 (52)	40 (61)	73 《186》	

※ () は他出した家族、《 》 は他出者も含めた数

集落現況マップ(不安と資源)について



皆さんが多く感じた八重集落の不安

- ・ 鹿、猿等による鳥獣被害
- ・ 山瀬谷を始めとする山崩れ、土石流、落石、増水
- ・ 小児科の遠さ、高校からの学費の高さ

皆さんが誇る八重集落の資源

- ・ 山菜、蜂蜜、寒蘭、ヤマメ、鮎、鰻
- ・ 山桜、紅葉、藤の花、オオムラサキ、メジロ
- ・ 御大師堂、吐合地藏、西郷隆盛伝説
- ・ 豆漬け谷の湧水、星空、棚田、滝
- ・ 鹿刺し、味噌団子



写真上 他グループの発表を熱心に聞く参加者
写真左 昔やっていたお祭りなど、資源抽出で話題ははずむ

ワークショップを通じて新たな八重集落の魅力を発見

ワークショップに参加された皆さんの感想と、今後集落元気づくりとして取り組んでみたいことを紹介いたします。

代表的な感想

- ・ 地元にあるもの、歴史等、少しながら発見もありました。まだまだ、元気な地区になりそうだと思います。
- ・ グループで色々な話を出す中で、今の八重地区の現状が改めて見え、新たな発見・再確認する事が多かったです。年代別に分かれて話し合う場はなかなか取れないので、話し合ってみて、皆さん色々な事を思っていることが分かり、楽しかったです。年代が上の人に、郷土料理を教えてもらいたいと思いました。
- ・ 水害にあってから、地区活動が億劫になっていたの、今日の時間は水害に遭う前の地区活動の楽しかった頃を思い出しました。
- ・ 人口ピラミッドにより集落の事が分かった。地図を使った事で、場所も分かりやすかった。



ワークショップでの白熱した話し合い

今後集落元気づくりとして取り組んでみたいこと

- ・ **八重地区についての勉強会**
…歴史的な事を始め、誰の山かなど、地域管理の情報の共有のためにも。
- ・ **山桜の花見、紅葉狩り**
…国道沿いにベンチや公園を設置して、桜や紅葉等を車窓から眺めるのではなく、足を止めてもっと近くで見られるように出来れば良いかなと思います。ファミリーフィッシングを桜の時期に復活させて、活性化させたい。
- ・ **空き田畑を利用した生産**
…老人の収入源として。獣害のない作物の生産をしてみたい。

宮崎大学 吉武先生の講評

吉武哲信先生は宮崎大学で、地域・都市計画、コミュニティ計画、交通計画の分野を研究されており、農山村コミュニティについても多くの研究実績をお持ちです。今回のワークショップにも企画段階から実施まで参加していただきました。ワークショップ終了後、吉武先生より次のような講評をいただきました。

「ワークショップは、参加者が楽しく行えたかどうかが一番である。今回、ほとんどの方にワークショップに参加して良かった、楽しかった、と感じてもらい、開催した意義があった。

話し合いや発表を通して、八重集落の魅力をあらためて知る良い機会になったのではないかと。特に、若い世代の方は、自分たちの住む地域でありながら初めて知ることも多かったようで、これを機会に年配の方からいろいろと習われたらどうか。」

次回も皆様の活発な議論を楽しみにしております。



ワークショップ終了後に講評される吉武先生

次回開催のご案内

日時 : 平成21年2月27日(金) 午後18時30分～午後21時15分
場所 : 八重活性化センターで開催予定

「テーマ:第2回自分たちの10年後を考えてみよう」

～10年後の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と取組について～

世帯アンケートから見た八重集落の現状

(1) アンケートの配布・回収について

・アンケートは八重集落の全世帯の世帯主の方へ送付し、各世帯から直接回収を行いました。

・配布数 32 に対し、回収数 26 世帯、回収率 81.3%です。

(2) 集落の共同活動の重要性 (図1)

・重要であると思われるのは、「共有資産の管理、集落内での葬儀の実施、寄り合い、他出家族との絆の強化、行政と一緒に取り組む地域づくり活動、住民の足の確保」です。

(3) 集落への居住継続意志 (図2)

・今後の集落への居住意向については、「今後とも住み続けたい」(17 世帯)が最も多く、次いで「状況によっては離れざるをえない」(6 世帯)となっています。

(4) 居住を継続する上での不安(図3)

・居住を継続する上での不安の上位3項目として、「土砂崩れ、崖崩れ等の発生の危険性が高い場所がある」(18 世帯)、鳥獣被害等が増加している(13 世帯)と回答した世帯が多くなっています。

(5) 今後居住を継続する上で必要なもの

・最も重要な項目として、「集落内の相互扶助」(11 世帯)、「国や自治体の支援・協力」(8 世帯)が最も多くなっています。

(6) 集落内あるいは近隣の地域資源

・集落内あるいは近隣の地域資源としては、「御大師堂、豆漬け谷の湧水、板谷川、下相谷の山桜、光男桜、竹之元谷」が挙げられました。

(7) 集落内の活用可能な資源

・集落内あるいは近隣の活用可能な地域資源としては、「遊休地や耕作放棄地や空き家」が挙げられました。

(8) 集落内あるいは近隣の食材を用いた自慢の料理

・集落内あるいは近隣の食材を用いた自慢の料理としては、「山菜(サトガラ、ウド、ワラビ、イタドリ、筍、ワサビ、タラの芽)、魚」が挙げられました。

(9) 子孫に残したい伝統芸能、特技・手業

・残したい伝統芸能、特技、手業としては、「伐採技術、炭焼き、米良寒蘭の培養、木工、釣り、狩猟」が挙げられました。

(10) 集落元気づくりへの取組意向 (図4)

・集落元気づくりへの取組意向としては、「取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい」(8 世帯)、次いで「今のところ取り組む気はない」(7 世帯)、「周辺集落と協力して取り組みたい」(5 世帯)の順であった。

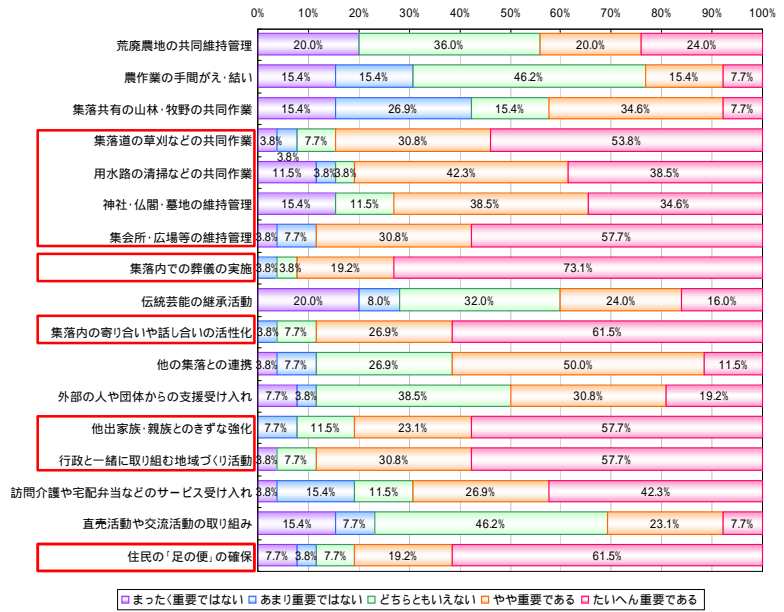


図1 集落の共同活動の重要性について

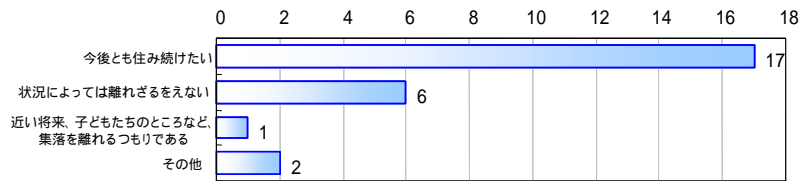


図2 集落への居住継続意志

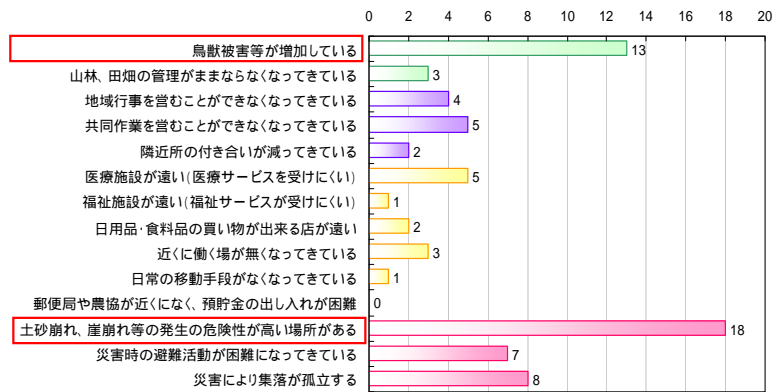


図3 居住を継続する上での不安

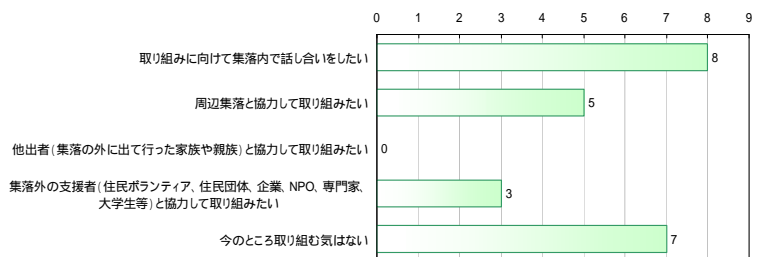


図4 集落元気づくりへの取組意向

西米良村八重集落 集落元気づくり新聞

平成21年3月3日
第2号

発行: 国土交通省九州地方整備局

第2回 集落元気づくりワークショップ開催される！

平成21年2月27日(金)に八重活性化センターで、第2回集落元気づくりワークショップを開催しました。

小雨が降る中、八重活性化センターには、約30名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。

第1回ワークショップに続き、今回は集落元気づくりの取り組みとして考えられるプロジェクト企画を、テーマ別に4グループに分かれて話し合い、集落として取り組むべき「集落元気づくり」の骨格を作り上げました。

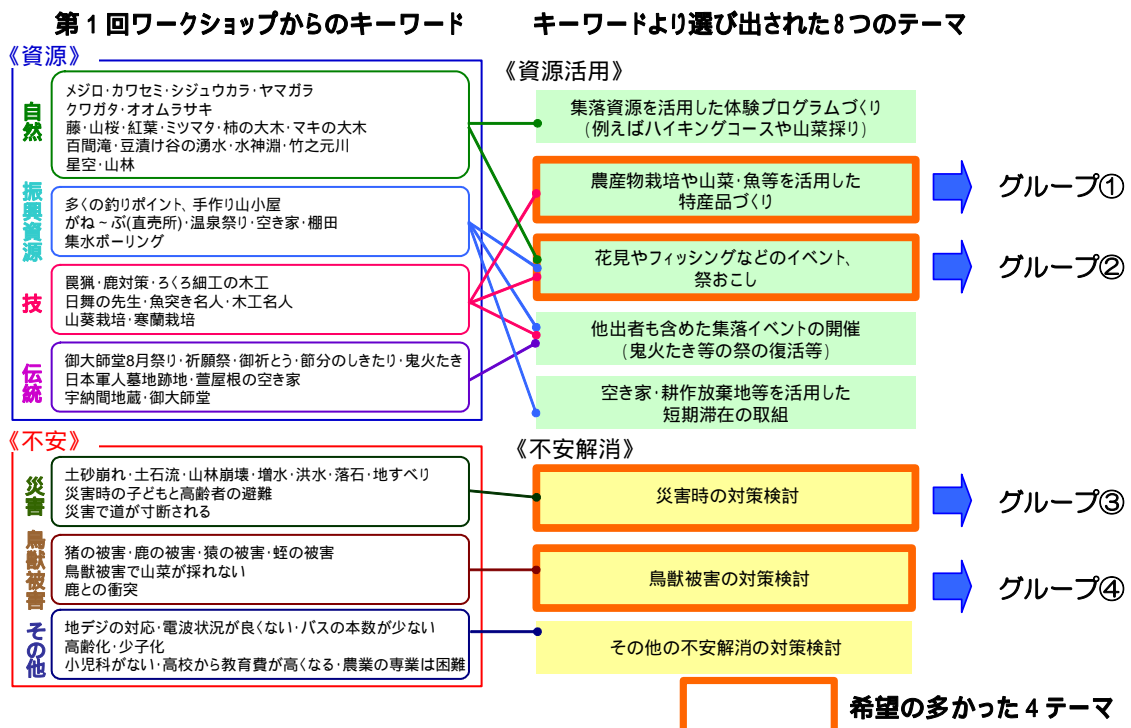
集落の現況を見つめ直し、将来を予測する中で、新たに見える集落の問題と課題。その共通認識の中から、世代間の意識差を解消し、お互いのやりたいこととの話し合いにみんなが真剣勝負でした。



あいにくの雨、でも会場には約30名の参加者が

今回のテーマは「特産品づくり」、「イベント開催」、「災害対策」、「鳥獣被害対策」!!!

第1回ワークショップで出された「資源」の活用や、「不安」の解消に向けた8つのテーマを選び出しました(下図)。その後、参加者の希望より4テーマに分かれて話し合いました。



テーマ 「MADE IN 所こらへん」

～ ミツマタ・キヨシの花だらけ村～

鳥獣被害が昔から多い八重では、鳥獣被害を受けない作物を作って生計を立てていた先人の知恵を参考に、八重の特産物を作ることが考えられました。

使うものは、コンセプトの「MADE IN 所こらへん」にも表れているように、八重に自生している数々の植物。その一つが「ミツマタ」。ミツマタは紙の原料にもなるうえ、早春にはきれいな黄色の花を咲かせ、八重での紙の生産を復活させるとともに、八重に新たな季節の彩りを加えることにもなるでしょう。このほか、茶の実からとれる油を採取して商品化、カズラを使ったクリスマスリース作り、草木染めなどが考案されました。

このように、「特別な工夫をすることなく、鳥獣被害の有無に左右されない植物を使うなど、自分たちの力でできることからやること」が八重の特産品づくりプロジェクトの方向性となりました。



八重集落の光男さくらの下に自生するミツマタ

《ミツマタ(三椏)》

ジンチョウゲ科の落葉低木。樹皮の繊維を紙の原料とするために栽培される。中国原産で、日本に伝来した年代は不明であるが、17世紀以前のこととみられる。樹高 1～2メートルで、枝がすべて3本に分かれるのが特徴で、ミツマタの名はこれに由来する。

テーマ 「八重夜桜祭り」

～ 先ず地元 村内 村外～

平成 16 年の台風災害から集落の寄り合いが減り、それまで行っていたファミリーフィッシング大会など、集落のみんなでお楽しむことがなくなりました。

今、集落では警察官だった光男さんが10年前に植えた「光男桜」が立派に育っています。

参加者からは「集落の周辺に自生しているミツマタを栽培して、光男桜に彩りを与えたい」、「花見でバーベキューが出来たら」、「夜桜を楽しむためにライトアップをしたら夜も楽しめそう」などのアイデアが次々と出てきました。

さらに、「まずは自分たちが楽しむのが一番」、「外の人と一緒に楽しむのはその後でいいや」、「いつも炊きだしばかりしている婦人部も楽しめるように、外から屋台に来てもらえるともっと盛り上がるよね」などなど、欲張りなプランに発展。

ファミリーフィッシングの頃のようにみんなが、前日からのわくわくした雰囲気も楽しみ、イベントを盛り上げて、集落のにぎわいが続いてほしいと思っています。



ミツマタ栽培を熱く語らせてくれ



今年も「光男さくら」が咲くのが楽しみ



「ミツマタ」の花は2月から3月にかけて見頃

テーマ 「災害に負けない八重地区」

～ みんな進んでニコニコ避難(清光さんといっしょ!)～

平成16年9月、台風18号が八重を襲い、土砂崩れ、避難所の床上浸水、避難道路の寸断など、甚大な被害をもたらしました。八重の集会所には20名が避難。しかし何人かの住民は避難せず自分の家にとどまっていた。

参加者からは「避難がバラバラだと連絡がとれないので不安」、「避難生活がどれくらい続くのか、最後は食料が尽きた」、「10年後の消防団は4人」、「住民全員の避難場所リストって更新されていたっけ?」など、避難生活の苦労話や災害時の問題点が次々と出されました。

あのような怖い思いは二度としたくない。そんな思いから「消防団の定年を10年延期」、「避難用食料備蓄をしよう」、「備蓄食糧が古くならないよう、定期的に食べるイベントを開催しよう」等と具体的な解決策が飛び出し、最後は避難を拒んでいた方も「俺も今度からみんなと避難する!!」と宣言。本日の最も大きな成果へと結びつきました。

最後に参加者から「消防団の定年は79歳でいいよ。俺、80歳だから」との迷言も飛び出し、一同大いに盛り上がりました。



避難所が浸水、裏手から急な小道を徒歩で避難



新しい避難所は快適だが、食料備蓄が課題

テーマ 「我が家の猟師さんで昔の森を取り戻そう」

～ シカ・サルの撲滅～

八重では猪、鹿、猿による鳥獣被害が多く、主に畑や造林地で起こっています。当初は、農作物が最も被害を受けていると予想していたのですが、それに反し参加者からは「農作物の被害は自分の家で消費する分だけ。最も深刻な被害は林業だ!」との意見が出されました。

一般的に、鳥獣被害対策は「防護柵設置」、「作物変更」、「捕獲」の3種類ですが、広大な山林を守るためには、防護柵や作物変更では対応できません。



鳥獣撲滅プロジェクトは刻々と具体化されていく

その後「狩ること!」を中心として議論が白熱。「猟友会に猟をしてもらおう」、「猟友会の捕獲率は低い」、「鹿1頭の奨励金は五千円だ」等々の話題が飛び交いました。また、自分たちでできるなら自分たちでやりたい!との思いから「我家で猟師を育てよう!」そして、鳥獣を撲滅して昔の森を取り戻そうというプロジェクトの方向性が固まりました。



鳥獣被害について熱く語るOさん

ワークショップに参加した私の感想

ワークショップに参加された皆さんの感想と、私がやってもよい取組として挙げられた意見を紹介します。

代表的な感想

- これなら出来るかなという事で、皆で取り組めそうと思った。
- お年寄りのやる気に驚かされた。負けていられない!と思いました。
- 1回2回と参加している内に、自分がこれならやれそうな事とか、こんな物を作りたいとか意欲が出て来ました。
- 1人で考えるより、皆で意見を出し合うと、色々つながって幅が広がるんだと思いました。普段会う地区の方達の新たな一面に気付かされる事があります。
- 各グループがそれぞれのテーマに沿って意見を出し合い、それを発表で聞く事によって、自分のグループ以外のプランが良く分かりました。



消防団の牧さん「みんな進んでニコニコ避難プロジェクト」説明中

この取組なら私がやります!!!

《八重桜祭り》

まずは、あらゆるものを使って、地元で楽しむ事から始められるという事もあり、子育てで忙しい日々の今でも出来そうな気がしました。

《災害に負けない八重地区》

これからも八重で生活する上で、災害に負けない心が必要です。災害にいつあってもいいように、防災についてなど、家内でも話し合いをしたいと思います。

《ミツマタ キヨシの花だらけ村づくり》

ミツマタ栽培を本気で考えています。観光産業として。村民全体で考えて努力すれば、4~5年で完成する。

《昔の森を取り戻そう》

どうしても被害を減らしたい。狩猟免許を取るぞ。

鹿児島大学 山田先生の講評

山田誠先生は、鹿児島大学で地域総合政策の分野を研究されており、奄美大島でサテライト教室を開講するなど、地域振興プロジェクトを各地で指導されております。先生のワークショップ後の講評です。

「本日は非常に幅広い年代の方が集まり、楽しそうに議論をしているのが印象的でした。皆さんの一番良いところは「自分たちが楽しく」、そして「やりたいことがある」ということが第三者にも伝わってくるのだと思います。

また、今回は別々のテーマについて議論しましたが、それぞれのテーマが関係していることが、話し合いを通じて感じられたかと思えます。お互いが力を合わせると参加者が多くなります。一つのイベントで、2つ3つの目的を達成することが、少ない人数で高齢化が進む、あるいは子供を抱えていて忙しい状況では、非常に重要です。」

次回はよいよ最終回です。八重でしかできない取組を皆さんと議論が出来ることを楽しみにしております。



ワークショップ終了後に講評される山田先生

次回開催のご案内

- ▶ 日時 : 平成21年3月9日(月) 午後18時30分~午後21時30分
- 場所 : 八重活性化センター

第3回ワークショップテーマ:「集落の未来について語ろう」

~集落の問題・課題を解決するための集落元気づくりの具体化~

西米良村八重集落 集落元気づくり新聞

平成 21 年 3 月 11 日
第 3 号

発行: 国土交通省九州地方整備局

第 3 回 集落元気づくりワークショップ開催される！

平成 21 年 3 月 9 日（月）に八重活性化センターで、第 3 回集落元気づくりワークショップを開催しました。

小雨が降る中、八重活性化センターには約 30 名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。

いよいよ最後のワークショップであり、集落元気づくりに向けた取組の実現に向けて、地区活動を行っている団体別（消防団、女性部、地区執行部他）に分かれて議論を行いました。

自分たちが考えた 4 つのプロジェクトを何から始めるのか？既に実行され始めた取組や、なかなかやり手が見つからない取組まで、集落の未来を話し合う発言一つ一つには力がこもっていました。



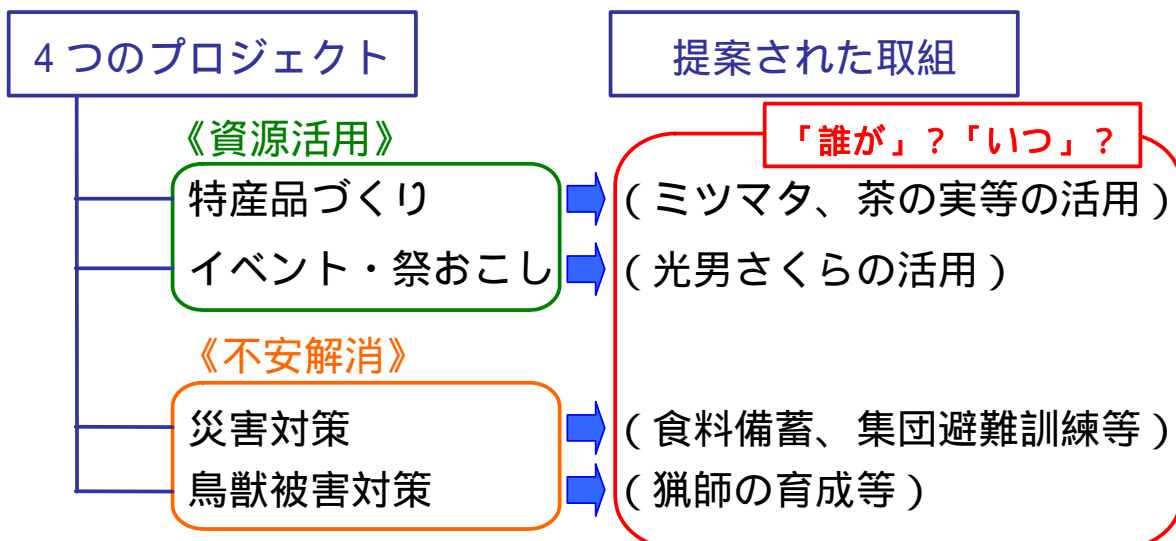
あいにくの雨、でも会場は熱気に包まれていた

今回のテーマは、集落元気づくりに向けた取組を「誰が」、「いつ」実行するのかを決めること！！！！

第 2 回ワークショップで出された 4 つのプロジェクトの実現に向け、各プロジェクトの取組に対する役割分担と実施時期、実施する上での課題について話し合いました。

第 3 回ワークショップの目的

前回で話し合われた 4 つのプロジェクトの実現に向け、「誰が」、「いつ」、「何を」行うのかを話し合い、特に今すぐ出来ることを決めることを目的としています。



八重の集落元気づくりテーマ 「みんなで ツくって(作って)」

ここから始めます！その1 「MADE IN そこらへん」

～ ミツマタ・キヨシの花だらけ村 ～

小雨が降る昼下がり、Hさんは既に行動を開始していました。「ミツマタを見ながら話し合ったら雰囲気が出る」と山から取ってきたミツマタの鉢植えを集会所に持って来られました。

今回のプロジェクトで最も重要な取組の一つであるミツマタ。ワークショップ開始早々、このミツマタの栽培、植え付けをどのように行うのか？具体的に議論が進んでいきました。

Hさん：「ミツマタの栽培は種、挿し木、株の移植の3種類ある。挿し木ができると楽なだけだね」

Kさん：「既に挿し木は試しているので、10月には付くかどうか結果がわかる」

Mさん「ミツマタの皮を使った和紙づくりには大変な労力があるし、ミツマタの育て方が違う。今回は観賞用に限定しよう」

ミツマタの栽培が既に進んでいる中、後は植え付けをどうしよう？と悩む間もなく、全員で「光男さくら」の下に植え付けを行うことで話はまとまりました。



ミツマタの花

活性化センターに持ち込まれたミツマタ



光男さくらの下に既に挿し木済み

ここから始めます！その2 「八重夜桜祭り」

～ 先ず地元 村内 村外 ～

ミツマタの植え付けの目処が立ち、光男さくらを利用したイベント開催を行うために、まずはライトアップをどのようにして行うのが問題になりました。

「投光器や発電機をどうしましょうか？」との問いかけに参加者からは、なかなか手が上がりませんでした。

そのうち、消防団から、「ライトアップに利用できるライト及び発電機があるので、どこまで明るく照らせるかわからないが、まずやってみよう」

「とりあえず消防団でライトアップのテストを行います。バーベキューの炭は用意しますので、食べるものは皆さん持ち寄って下さい。」と話はまとまり、会場も光男さくらを正面で見る事ができる板谷川の対岸に決定。

実施予定日はオフトーク放送でお知らせいたします。皆さんお聞きのがしなく。



さくらが満開になったら対岸でバーベキューをしよう



ライトアップ用投光器とバーベキューセットは消防担当

みんなで楽しむ前に消防で
予行演習しようか？

マもろう(守ろう) タから(宝) ~とりあえずミツマタ~」

ここから始めます！その3 「災害に負けない八重地区」 ~ みんな進んでニコニコ避難(清光さんといっしょ!) ~

消防団が10年後には7名から4名。とのことから消防団の定年問題から話し合いはスタートしました。しかし、その事情はお隣の板谷集落も同じ。この4月より板谷集落と八重集落の消防団を一つに再編し、広域的に見ていく方向で話を進めていくとの事前報告がありました。

その後、話し合いは集団避難と自主防災組織の必要性について及びましたが、平成16年の台風以降は自主避難が根付いており、避難する際は今後も周りに声かけをしっかりと行うこととなりました。台風や大雨などで災害が起こりそうな時は、ほとんどの人が松之元の集会所などへ自主的に避難をするのですが、浸水被害の及ばない高台に本宅を移した人もいました。

今回の話し合いで、「避難する前に隣近所への声かけを行う(消防団が声かけリストを作成する)」、「避難所へ備蓄する食糧(3日程度)は、女性部おまかせとする」、「10月の生涯学習大会に合わせて炊き出し訓練を行い、備蓄食糧をみんなで食べ、災害時の経験を忘れない様に語り今後活かす」等の取組を先ず行うことになりました。



高台の避難小屋はいつしか本宅に



災害用に備蓄する食糧は女性部が選ぶ予定

ここから始めます！その4 「我が家の猟師さんで昔の森を取り戻そう」 ~シカ・イノシシ・サルの撲滅~

プロジェクトの取組へ入る前に会場より、鳥獣被害ではなく、「獣害」であるとの訂正が入りました。

獣害を食い止めるため、集落一体となった取組が必要であることは皆が理解しています。しかし、集落内で猟の資格を持っている人はたったの3名。

銃の免許取得は手間と費用がかさみ、なかなか出来ない。罾はどうだろうか？

実際に取り組む段階で、その困難さを会場一同が痛感します。



猟銃は直ぐには無理と諭すMさん



罾について説明するKさん



鹿に皮を食べられたヒノキ。長年育てた材木の価値が...

獣害の問題に集落だけで対策を取っていくのは難しく、西米良村全体、宮崎県や熊本県も含む広域的な取組が必要である、との意見も出されました。

その後、狩猟免許を持っている人から、猟についての具体的に説明もあり、集落としては、数名が罾の免許取得から取り組みを始めようということになりました。

「みんなで責任を持ってやろう」



最後に熱く所信表明するHさん

ワークショップに参加した私の感想

ワークショップに参加された皆さんの感想を紹介します。
ワークショップに参加して（代表的な感想）

- ・今の私達に出来るのだろうか？という事を考えさせられました。何をやるにも限界が有ったり、でも出来るゾ！というところまでの発見もあり、この三回の収穫は大きいです。
- ・若者から高齢の方までの会の中で、全ての人が内容を理解し、一つのことを全員で考える方法が素晴らしいと感じました。
- ・意外と難しい問題が山積みなのだなと思った。
- ・前二回は、思いついた事や地区の方々の話の聞いたり面白い発見が多かったのですが、今回の現実に実行となるとなかなか難しい事が多いな、と思いました。現実はなかなか…です。
- ・地域の人たちの意識、気付き、見方などに少しでも変化が見られたようで良かった。これが全て良かったってことにはならないかもしれないが、きっかけづくり的にはとても良かったと思う。又、総会前のこの時期というのが、より良かったと思う。
- ・生き甲斐を感じます。是非成功したいです。
- ・これからの八重を思うことができた。

宮崎大学 吉武先生の講評

第1回ワークショップに続き、宮崎大学の吉武先生に第3回ワークショップのアドバイザーとしてお越しいただきました。先生の講評です。

「本日はみなさんが積極的に話をされ、難しい問題もありましたが「とりあえずミツマタ」をキーワードにして、活動しようと思ったことは大変良かったと思います。たった3回のワークショップで、ここまで話が具体化するのはいずれであり、今後が楽しみです。

今から活動を行うのは皆さんであり、誰かがチェックするからやるといふモノではありません。

もし、声をかけていただければ応援にきて、一緒に楽しもうというスタッフの方もたくさんおられると思います。

今後も、皆さんが色々な人と関わり、みんなが楽しめ、それぞれが何か役割を持っていることを、ミツマタを機にして出発できれば、活動に広がりが出てくると思いますので皆さん協力して頑張って下さい。」プロジェクトを実行する際は我々も呼んでいただけることを楽しみにしております。



ワークショップ終了後に講評される吉武先生

《編集後記》

みなさま年度末のお忙しい中、ワークショップへの参加及び熱心な議論ありがとうございました。短い期間でしたが、皆様とお話しているうちに、私もスタッフも八重の良さなどが分かり、今後の集落問題を考えていく上で多くのことを学ばせていただきました。

「ミツマタ」、「花見」、「集団避難訓練」、「獣害対策」への取組が、皆様の元気と不安解消へとつながることをスタッフ一同祈念いたします。イベント開催時は是非誘ってください。